

令和6年度 福祉教育推進事業担当者会議

以下のとおりご確認と必要書類のご提出をお願いいたします。

- 1 令和6年度 福祉教育関係事業の年間スケジュール・・・資料1
- 2 令和6年度福祉教育推進校事業の実施に伴う補助金交付申請書等の提出について（依頼）
○ご提出は郵送（交換便 NG）および電子メールでお願いします。
※提出書類をご確認の上、5月31日（金）必着でご提出ください。
- 3 福祉教育推進事業実施要綱・・・資料2
○児童・生徒を対象に社会福祉に関する実践学習の機会の提供や地域福祉活動への理解促進のため、1校につき上限3万円を交付します。
○要綱と予算執行に関する Q&A をご確認の上、必要書類を作成・ご提出ください。
- 4 福祉教育推進校 様式 ダウンロード方法
○様式のデータ（Word）のダウンロードは記載のとおりです。
- 5 令和5年度 福祉教育推進校事業参加校事業実績一覧・・・資料2－1
○令和5年度に行われた各校の事業一覧になります。福祉教育推進のため各校の取り組みをご参考ください。
- 6 児童・生徒の福祉実践教室実施要綱・・・資料3
○児童・生徒が障がい者や高齢者などの当事者から話を聞いたり、実際に疑似体験する機会を提供します。授業までの流れについては「福祉実践教室の進め方」をご確認ください。
- 7 令和5年度 福祉実践教室実施状況・・・資料4
○令和2年度から令和4年度の実施校数、延べ日数、延べ体験者数の実績の比較と、体験科目別の前年度実績とを比較した実施状況です。
- 8 福祉実践教室教員向け研修会 日程表・・・資料5
○先生方に、福祉実践教室で行う授業を体験していただき、福祉実践教室の必要性や授業を行う際の注意事項などを知っていただきます。

- 9 「福祉」の授業に取り組まれる先生のためのハンドブック・・・資料6
- 疑似体験を中心に行う福祉実践教室とは違い、当事者の生活や障がいの特性などの話をしっかり聞き、疑似体験を行い、学びの振り返りを行うなど、「事前学習」、「疑似体験」、「事後学習」を一連のプログラムとして提供します。

検索：『岡崎市教育ポータルサイト OK リンク』の各種出前講座
➡岡崎市社会福祉協議会にハンドブック、申請書のデータがあります。

- 10 令和5年度 福祉教育プログラム実施状況・・・資料7
- 令和3年度から令和5年度の実施校数、延べ日数、延べ体験者数、科目別実績を比較した実施状況です。
- 11 令和6年度福祉体験作文コンクール
- 募集要項に沿って、応募下さい。応募は、令和6年9月13日(金)までに岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンターにご提出下さい。
- 12 手話通訳者、要約筆記奉仕員派遣事業について
- 児童・生徒や保護者に聴覚障がいのある方がいる場合に利用できる事業です。詳細はパンフレットと記入例をご確認ください。

岡崎市社会福祉協議会 ボランティアセンター

〒444-0802 岡崎市美合町五本松 68-12 (岡崎市社会福祉センター1階)

TEL : 47-7955 FAX : 47-4956 E-mail : vc@okazaki-shakyo.jp

令和 6 年度 福祉教育関係事業 年間スケジュール

時 期	内 容	
5 月 7 日（火）	福祉体験作文コンクール通知	5 月 7 日メールにて送付
5 月 10 日（金）	福祉教育推進校担当教諭会議 ・関係事業や事務手続き等の説明	Z o o m
5 月 31 日（金）	福祉教育推進校補助金交付申請書締切（必着）	
6 月中旬	福祉教育推進事業補助金送金	
5 月中旬	赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール出品依頼	
8 月 6 日（火） 9 日（金）	福祉実践教室担当教諭研修会	社会福祉センター
9 月上旬	赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール応募締切	
9 月 15 日（金）	福祉体験作文コンクール応募締切	
11 月 20 日（水） ～ 11 月 24 日（日）	赤い羽根作品コンクール作品展 ※学校推薦全作品	岡崎市美術館
12 月 3 日（火）	赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール優秀作品表彰式	社会福祉センター 多目的室
2 月上旬	福祉教育推進校事業実施報告書提出依頼文書の送付	
3 月上旬	実施報告書等書類提出締切 (実績報告、事業報告、決算書、領収書)	

岡社協第 48 号
令和 6 年 5 月 吉日

福祉教育推進校長 様

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会
会 長 太 田 俊 昭

令和 6 年度福祉教育推進校事業の実施に伴う補助金交付申請書等
の提出について（依頼）

新緑の候、貴職におかれましては御健勝のこととお喜び申し上げます。

日ごろは、当協議会事業の推進に多大な御理解、御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、令和 6 年度福祉教育推進事業の実施について、補助金交付申請書等を
下記のとおり御提出くださいますようお願いいたします。

記

- 1 提出書類
 - ・福祉教育推進校事業補助金交付申請書（様式 1）
 - ・事業計画書
 - ・収支予算書
 - ・振込先となる通帳のコピー（表紙と 1 ページ目）

- 2 提出期限 令和 6 年 5 月 31 日（金）必着

※ご提出は郵送（交換便 NG）および電子メールでお願いします

- 3 提 出 先 岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンター
〒444-0802
岡崎市美合町五本松 68-12（社会福祉センター1 階）

- 4 そ の 他 補助金については 6 月中旬に全額送金の予定です。

《お問い合わせ先》

岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンター 〔担当：石川・梅本〕
電話 47-7955 FAX47-7956 Mail: vc@okazaki-shakyo.jp

福祉教育推進事業実施要綱

1 目 的

市内の小学校、中学校及び高等学校等（公立、私立、高等部を含む。）を福祉教育推進校として指定し、在校児童・生徒を対象に、社会福祉に関する実践学習の機会や活動しやすい環境を提供し、地域福祉活動への理解と関心を高め、ボランティア活動への参加をとおして広く国際的、人類的視野での人格形成を目指すとともに、人間に対する優しさと豊かな心を育て、社会連帯並びに地域社会との連携の精神を養うことを目的とする。

2 実施主体

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会（以下「社協」という。）

3 主な活動内容

学校内、外において福祉活動として必要な「交流・体験」、「広報・啓発」、「収集・募金」、「参加の促進」に関する内容とする。

(別紙 1)「活動内容区分」参照)

4 推進校の指定

当該事業の指定については、毎年度未指定校に対し希望調査を行い、翌年度の福祉教育推進校の指定を希望する学校のなかから指定する。

指定を受けた学校は、申し出がない限り、毎年度継続して当該事業に取り組むものとする。

5 補助額

福祉教育推進校に対し、福祉教育推進事業にかかる経費を 1 校につき 30,000 円を上限に交付する。

学校長は、この経費を別に定める別紙 2「補助金の使途例示」に基づき計画的かつ適正に執行しなければならない。

6 補助金の申請

補助金の交付申請については、福祉教育推進事業補助金交付申請書(様式 1)に、次に掲げる書類を添え、会長が別に定める日までに提出しなければならない。

- (1) 福祉教育推進事業計画書
- (2) 福祉教育推進事業収支予算書
- (3) 振込先の通帳コピー

7 交付決定

会長は、前条の申請を審査し、適当と認めた場合は、補助金交付通知書（様式2）を送付する。

8 事業実績報告書の提出

福祉教育推進事業精算兼実績報告書（様式3）に、次に掲げる書類を添え、会長が別に定める日までに提出しなければならない。

- (1) 福祉教育推進事業計報告書
- (2) 福祉教育推進事業収支決算書
- (3) 領収書のコピー

9 補助金の返還

会長は、申請団体が次の各号に該当する場合は補助金の交付決定額の全部もしくは一部を取消し、又は既に交付した補助金の全部もしくは一部を返還（様式4）させることができる。

- (1) この要綱又は交付決定に付した条件に違反したとき。
- (2) 補助金を補助目的以外に使用したとき。
- (3) 提出書類に虚偽の事項を記載し又は、補助金の交付に関し不正な行為があったとき。
- (4) 決算額が補助額に比して減少したとき。
- (5) 補助事業を中止したとき。

10 その他

この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

この要綱は平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

この要綱は平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

この要綱は平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

この要綱は令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

【活動内容区分】

A 校内活動	① 交流・体験	ア) 地域の高齢者（一人暮らし、老夫婦世帯等）へのお便り活動 イ) 地域の高齢者・障がい者等を学校行事に招待又は、お話の講師として招く ウ) クラブ活動等による点字・点訳活動 エ) 福祉実践教室や福祉教育プログラム（点字、手話、要約筆記、車いすガイド等）の開催 オ) 点字、手話、各種ガイド等のボランティア講座、看護・介助実習の実施 カ) 他の指定校や学区福祉委員会や老人クラブ等との交流会や勉強会、福祉体験活動、合同催事
	② 広報・啓発	ア) 福祉に関する講演会、映画会、展示会、体験発表や活動報告会等の開催 イ) 福祉に関する各種調査（校内の児童・生徒及び校外での意識調査等） ウ) 学校新聞（福祉新聞）、福祉ポスターや標語等の募集、福祉体験感想文、ボランティアニュースづくり エ) 国際ボランティアの活動調査や国際異文化交流の活動発表
	③ 収集・募金	ア) 赤い羽根募金、歳末たすけあいなどの募金活動 イ) 災害による被災地、ユニセフ、難民・開発途上国への募金・物品援助等 ウ) 福祉施設や福祉関係団体への募金・物品援助等 ③は、収集や募金後の使われ方や実体験の学習につながる活動の実施が必須
B 校外活動	① 交流・体験	ア) 福祉施設等への訪問・交流（児童、高齢者、障がい者等）、施設行事への参加 イ) 特別支援学校、ろう学校、盲学校との交流活動 ウ) 一人暮らし高齢者宅への訪問、交流活動 エ) 地域住民との福祉交流への参加

※本要綱の「福祉活動」とは、児童、高齢者、障がい者、地域住民、福祉関係者等との交流や自主的な体験学習・福祉学習、ボランティア活動とする。

【対象とならない費用の例】

- ・通常、学校の運営に必要となる物品の購入費用（清掃道具等）
- ・学校の緑化活動が目的の花や苗や腐葉土の購入費用
- ・福祉の要素を含まない農業体験、掃除活動、資源回収に関する費用
- ・福祉の要素を含まない地域の歴史や文化学習に関する費用

福祉教育推進事業補助金の使途例示

項 目		使 途
会 議 費		講師や交流参加者の飲み物、茶菓子代
旅 費		事業に関わる担当教諭及び生徒・児童等の旅費、バス代
謝 金		福祉講演会・研修会の講師
事業費	消耗品費	画用紙、原稿用紙、折り紙、マジック、サインペン、インクカートリッジ、鉛筆、絵の具、アルバム等の購入代
	通信運搬費	ハガキ、切手等の購入、物品の運搬代
	賃 借 料	会場等使用料
	印刷製本費	活動報告集、感想文集等作成費、印刷物等諸費
	調査研究費	研修会等参加費、参考図書・資料購入代、映画・ビデオ等借上料
	役 務 費	ボランティア保険、行事用保険等

1. 補助金の使途について

(1) 福祉に関する活動が対象です。

2. 補助金申請の執行について

- (1) 学校行事やPTA行事等の他経費との混同を避け、原則として福祉教育推進校事業独自の通帳で管理してください。
- (2) 旅費額等は、各学校の規程等にて執行し、旅費額の算定根拠となる資料を添付してください。
- (3) 年度末に提出いただく実施報告書（経費内訳）には、領収書のコピーを添付してください。なお、領収書が添付することができない場合には、学校長の支払い証明書を添付してください。

(様式1)

第 号
令和 年 月 日

令和 年度 福祉教育推進事業補助金交付申請書

(宛先)

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会長

所在地
学校名
校長名

令和 年度において、福祉教育推進事業を行うため、次のとおり補助金の申請をします。

1 補助申請額 _____ 円

2 事業目的 _____

3 事業内容 _____

4 添付書類

- ・福祉教育推進事業計画書
- ・福祉教育推進事業収支予算書
- ・振込先の通帳のコピー

5 補助金振込先

金融機関名	
支 店 名	
口 座 番 号	普通預金 No.
フリガナ 口 座 名 義	

令和 年度 福祉教育推進事業計画書

学 校 名			
所 在 地	岡崎市		
電 話 番 号	—	F A X 番 号	—
担当教諭名		郵 便 番 号	4 4 4 —
全校生徒数	名	学 級 数	クラス
学年別生徒数	1 年 生 名、 4 年 生 名、	2 年 生 名、 5 年 生 名、	3 年 生 名、 6 年 生 名

活動区分	事 業 名	実 施 月 日	参加生徒数	事 業 内 容
例) B－①－ウ	一人暮らし高齢者訪問事業	○月○日	○名	○年生が学区の対象者に手紙を書き、訪問して交流する。

※活動区分は別紙1「活動内容区分」をご参照ください。

令和 年度 福祉教育推進事業収支予算書

学校名 []

【収入の部】 (単位：円)

項 目	金 額	説 明
市社協補助金		
合 計		

【支出の部】

項 目	金 額	説 明
1 会 議 費		
2 旅 費		
3 講師等謝金		
事業 費 内 訳	① 消耗品費	
	② 通信運搬費	
	③ 印刷製本費	
	④ 調査資料代	
	⑤	
	⑥	
	⑦	
5		
6		
7		
合 計		

(様式3)

第 号
令和 年 月 日

令和 年度 福祉教育推進事業精算兼実績報告書

(宛先)

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会長

所在地

学校名

校長名

令和 年 月 日付け岡社協第 号で補助金等の交付決定を受けた事業が完了しましたので、次のとおり報告いたします。

1 補助金残額 _____ 円

2 事業効果及び課題

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

3 添付書類

- ・福祉教育推進事業報告書
- ・福祉教育推進事業収支決算書
- ・領収書のコピー、資料等

令和 年度 福祉教育推進事業報告書

学 校 名			
担当教諭名		電 話 番 号	

活動区分	事 業 名	実 施 月 日	参加生徒数	事 業 内 容
例) B－①－ウ	一人暮らし高齢者訪問事業	○月○日	○名	○年生が学区の対象者に手紙を書き、訪問して交流した。

※活動区分は別紙 1 「活動内容区分」をご参照ください。

令和 年度 福祉教育推進事業収支決算書

学校名 []

【収入の部】 (単位：円)

項 目	金 額	説 明
市社協補助金		
合 計		

【支出の部】

項 目	金 額	説 明
1 会 議 費		
2 旅 費 等		
3 講 師 等 謝 金		
4 事 務 費		
事業 費 内 訳	① 消 耗 品 費	
	② 通 信 運 搬 費	
	③ 印 刷 製 本 費	
	④ 調 査 資 料 代	
	⑤	
	⑥	
	⑦	
5		
6		
7		
合 計		

*領収書のコピーを添付してください。

交通費等領収書の無い場合は、学校長の証明を添付してください。

福祉教育推進事業 予算執行に関するQ&A

区分	内 容
物品購入	Q. 高齢者施設へ生徒が訪問する際に和太鼓を叩く。その太鼓のばちの購入費用として充ててよいのか。
	A. 認められません。太鼓は日ごろの学校活動の中で取り組まれている文化伝統の継承であり、福祉にかかる費用とは認められません。
	Q. デジタルカメラを購入したい。
	A. 認められません。 原則、学校の備品となるものの購入に充てることはできません。
	Q. 校外の美化活動のための清掃道具を購入したい。
	A. 認められません。通常の学校活動で使用するはずの清掃道具を本事業で購入することはできません。
	Q. パソコンのインクを購入したい。
	A. 印刷物があるのであれば認められます。
	Q. 補助金で車いすを購入し、施設に寄付したいが認められるか。
	A. 補助金を他団体等への寄付（物品含む）、補助に充てることは認められません。
講師料等	Q. 社協を介さずに福祉の体験講座を実施した。その際の講師料として充ててよいのか。
	A. 認めます。しかし、福祉実践教室での取り扱いがふさわしいと思われる授業については、次年度から福祉実践教室として取り組まれるようお願いいたします。
	Q. 福祉実践教室の講師にガソリン代等の交通費を支払ってよいのか。
	A. 講師にかかる費用は社協が支払っています。そのためガソリン代やバス代等を本事業の補助金からお支払いいただくことはできません。ただし、本事業の予算ではなく、学校独自の予算で交通費等の支払いをされる場合には、社協が介入することはありません。
	Q. 福祉実践教室の講師に出したお茶菓子の代金は認められるか。
	A. 認めます。また、少額の手土産についても認めます。社会通念上、認められると思われる範囲に限ります。
	Q. 講師の方への花束のプレゼントは認められるか。
	A. 認められません。また、プレゼント用の花鉢も認められません。 プレゼントのために計画的に学校で育てた花であれば認めます。
会計の処理	Q. 補助金の一部が余ってしまったがどのような手続きが必要か。
	A. 補助金の精算報告書に補助金残額をご記入いただいた場合、その金額の返還請求書を学校へお送りしますので、それに基づき返戻してください。
	Q. 領収証の合計額が 30,000 円を超えてしまうが…。
	A. 本会からの補助金が何に使われたかを明瞭にしていいただければ、領収証の形にこだわるものではありません。

福祉教育推進校 様式 ダウンロード方法

- ① 「岡崎市社会福祉協議会」で検索
- ② トップページ左枠の「ボランティア」→「ボランティアセンター」をクリック
- ③ 「各種ダウンロード」をクリック
- ④ 福祉教育推進校 「様式（申請書類）」をクリック



令和5年度 福祉教育推進校事業参加校 事業実績一覧

資料2-1

No	学校名	区分	事業名	内容
1	梅園小学校	A-①-カ	梅園クリーン作戦	特別支援学校の生徒と共に、特別支援学校の除草、学区の川や公園の清掃を行った。
		A-①-カ	福祉に関する体験学習	高齢者体験や車いす体験、視覚障害や聴覚障害の方の話を聞く会を設け他者への関わりを学んだ。
		A-②-ア	梅っ子フィスティバル	上記6年生の体験を発表し下級生に伝えた
2	根石小学校	B-①-ア	福祉の村との交流	福祉の村にて代表児童が「根石ソーラン」を披露し交流し、図画作品交流を定期的に実施した。
		A-③-ア	学区のお年寄りへの手紙	学区敬老会祝賀会に合わせて、約1000名にお祝いのお手紙を書いた。
		A-①-エ	福祉実践教室	車いす体験や高齢者体験、視覚障がいガイドや手話を学んだ。
3	男川小学校	A-①-カ	ボランティアによる読み聞かせ活動	学区ボランティアサークル「もこもこ」による本の読み聞かせ活動
		A-③-イ	能登半島地震義援金募金	代表委員が募金を全国に呼び掛け回収、集計。
		A-②-オ	社会福祉に関する実践	授業内で「手話で話そう」という絵本や、その他著書を用いて、各種障がいについて学んだ。
4	美合小学校	A-③-イ	能登半島地震支援募金	被災者に対し児童の発案で募金活動を行った。授業参観時にも協力を呼びかけ寄附した。
		A-①-エ	福祉実践教室	高齢者疑似体験、車いす体験を通して、障がい者理解と自分たちの役割について考える機会となった。
		A-①-ア	学区敬老会	学区在住の約900名の高齢者に対し、長寿を祝った。
5	緑丘小学校	A-①-ア	学区敬老会	地域の75歳以上の敬老者に絵手紙を贈り、学年ごとに歌や合奏を発表した。
		B-①-ア	施設訪問	高齢者センターを訪問し吹奏楽部が演奏を行った。
		B-1-イ	交流活動	みあい特別支援学校を訪問しゲーム等で交流し、また図工作品の交流も行った。
6	羽根小学校	A-①-エ	福祉実践教室	5.6年生が高齢者の身体活動を疑似体験し、大変さを実感することができ、訪問活動へ繋げた。
		A-①-ア	地域高齢者へのお便り活動	全校児童が敬老の日に向けて、長寿をお祝いするメッセージに折り紙作品を添えた。
		B-①-ア	交流活動	2年生が高齢者施設を訪問し、昔遊びや体操などをして交流した。成果をまとめ掲示し全校に報告した。
7	岡崎小学校	A-①-エ	福祉実践教室	車いす、点字、視覚障がいガイド、高齢者疑似体験の4つの体験を行った。
		A-①-キ	学区交流会	学区の小中学校の支援学級の児童・生徒が集まって交流した。各学校の発表やゲームなどを行った。
		A-③-オ	ブルタブ収集運動	奉仕委員会が中心となり、ブルタブを集め、車いすの購入する活動に参加した
8	六名小学校	A-①-ア	学区お年寄りへの手紙	学区のお年寄りに手紙を書いて渡した
		B-①-エ	地域環境美化活動	学区内の公園等の施設の清掃を地域の方々と協力して行うことができた。
		B-①-ウ	学区老人介護施設訪問	介護施設に手紙や折り紙をプレゼントした
9	三島小学校	A-①-エ	福祉教育プログラム	聾者から話を聞き、普段の生活の中で聾者にどのような協力ができるか考えた。
		B-①-イ	盲学校との交流会	4年生が盲学校に訪問し、点字の学習・アイマスク体験をし視覚障がい者への介助の大切さを学んだ。
		A-①-エ	福祉教育プログラム	5年生が車いす体験を行い、介助の必要性に気付くことができた
10	竜美丘小学校	A-①-エ	福祉実践教室	車いす体験や手話体験など、講師の方を招いて福祉実践活動を行った。
11	連尺小学校	B-①-エ	学区クリーン作戦	地区掃除、公園掃除、伊賀川などの掃除をした
		A-①-イ	敬老会しおり作り	学区敬老会に合わせ、学区在住の高齢者にプレゼントするしおりを色画用紙やリボンを用いて作成した
		A-①-エ	福祉実践教室	5年生の総合学習で身体・視覚・聴覚・発達障害について体験、聴講し自分ができる福祉活動を考えて、老人クラブと協力し校地内の草取りをし、その後感謝の気持ちをカードに渡した。
12	井田小学校	A-①-イ	学区老人クラブ連合会草取り奉仕活動	
13	愛宕小学校	B-①-ウ	学区敬老会	学区のお年寄りに手紙を書いて交流した。
		A-①-イ	桜の話を聞く会	学校の桜を長年大切にしてきた学区の高齢者から話を聞き学校の桜についてともに考えていく
		A-①-イ	伝統文化体験	お茶、生け花、琴の体験会の講師として地域の高齢者を招き交流を図った。
14	福岡小学校	A-①-イ	ふくふくタイム	1、2年生が地域のお年寄りや昔遊びを通して交流した。地域のお年寄りに支えられていることを学んだ。
		B-①-エ	敬老詩集贈呈	全校児童が敬老の詩を書き、詩集としてまとめ、全敬老者に贈呈した
		A-①-カ	地域の方とふれあう会	地域に住む方を講師として招き、昔の遊びや道具の製作、暮らしについて話を聞いた。
15	竜谷小学校	A-①-イ	高齢者との交流活動	高齢者を講師として招き、交流した
		B-①-ア	福祉施設との交流	総合学習の時間に学区の老人保健施設へ訪問し意見交換を行い住みやすい町づくりについて考えた。
		A-①-イ	学区敬老会	学区在住の高齢者に向けてお祝いと感謝の手紙を渡した。音楽部は敬老会の中で唄や演奏を贈った。
16	藤川小学校	A-①-エ	福祉実践教室	4年生が高齢者疑似体験、車いす体験、発達障がいについて学んだ。
		B-①-ア	むらさき麦の郷交流会	3年生が斉唱や器楽演奏などを計画し、施設で発表したり、お年寄りと会話したりした。
		B-①-ア	藤花荘、第二藤花荘との交流	4年生がクイズ、斉唱、器楽演奏などを計画し、施設での発表会を行った。
17	山中小学校	A-①-キ	ふれあい交流	特別支援学級の児童が在籍する学級の児童を誕生日会に招いて交流した。
		A-①-ア	学区敬老会	学区のお年寄りとの交流。手紙の贈呈を行った。
		A-①-オ	感謝の会	交通指導員や見守り隊などの代表の方へ感謝の気持ちを表し、育てた花をプレゼントした

小 学 校	18	本宿小学校	A-①-イ A-①-イ B-①-イ	学区敬老会 SSV感謝の会 岡崎特別支援学校との交流活動	学区の敬老者に対してお祝いの手紙を届けた 登下校サポートや読み聞かせボランティアの方へ感謝を伝える会を開いた 岡崎特別支援学校の児童と、学年ごとに学年行事等の紹介交流を行った。
	19	生平小学校	B-①-ウ A-①-イ A-①-イ	独居高齢者宅を訪問・交流 お年寄りから昔の遊びを学ぶ ふれあい餅つき大会	色紙のプレゼントを計画し、交流活動を図った。 老人クラブの方に昔の遊びを教えてもらいながら一緒に活動した お年寄りから餅のつき方や丸め方を学び、地域の方と交流をはかった。
	20	常磐南小学校	B-①-ア A-①-ア A-①-カ	老人施設訪問 学区敬老会 福寿会合同奉仕活動	3年生の有志が、学区にある老人施設を訪問し、運動会で行ったダンスを披露し交流した。 お祝いのメッセージを記した「しおり」をプレゼントした。 福寿会の方々と一緒に校地内の清掃・草取り活動を行い交流した。
	21	常磐東小学校	A-①-カ A-①-カ A-①-イ	合同草取り スポーツ交流 学区敬老会	学区老人会と一緒にいった。昔話や草取りのコツを教えていただいたりと交流を深めた。 5月にグランドゴルフ、9月にベタンクをして交流した。やり方を教えていただく中で親交を深めた。 学区在住の敬老者へ歌や手紙をプレゼントし、高齢者への敬老の気持ちを育むことができた。
	22	常磐小学校	A-①-エ A-①-イ A-①-イ	福祉実践教室 常小ふれあいデー 交通ボランティア感謝の会	4年生は高齢者疑似体験、5年生は車いす・視覚障がい者体験、6年生は手話体験を行った 地域のお年寄りを講師に招き、割りばし鉄砲や紙飛行機作りなどを学んだ 交通ボランティアの方々を招待し全校に紹介した。
	23	恵田小学校	A-①-イ A-①-キ A-①-キ	学区敬老会 落ち葉スキー交流・開場式 収穫感謝祭	学区のお年寄りを手作りの招待状で招き、歌や演奏を披露して敬老会を行った。 開場式に岡壁の4・5年生を招待し、その後各学年が交流し理解を深めた 米作りの発表やキウイ・野菜販売を行った
	24	奥殿小学校	A-①-オ A-①-エ A-②-ウ	ボランティア講座の開催 福祉実践教室の開催 福祉新聞作成	5年生が、認知症についての講演の受講と車いす体験を行った。 5年生が、福祉についての講習の受講、手話体験、視聴覚ガイドの体験を行った。 ボランティア講座と福祉実践教室
	25	細川小学校	A-①-イ A-③-オ A-①-イ	お年寄りとの交流「昔遊びの会」 ペットボトルキャップ回収 福祉実践教室	学区老人クラブの方にこま回しや竹とんぼなどの遊びを教えていただくことを通じて交流を行った。 福祉委員会を中心にペットボトルキャップを回収した 手話・視覚障がい者の疑似体験を行い、福祉とは何かについて学んだ
	26	岩津小学校	B-①-イ A-①-カ B-①-イ	県立岡崎聾学校との交流 敬老会へ参加 みあい特別支援学校との交流	学年ごとで、レクリエーションなどを通して交流会を行った。 学区敬老会で、音楽部が演奏発表を行った 居住地交流や製作活動を通して交流した
	27	大樹寺小学校	B-①-イ B-①-オ A-①-カ	各特別支援学校との交流 大樹寺保育園との交流 ボランティア感謝の会	地域に在籍する岡崎聾学校、岡崎特別支援学校、みあい特別支援学校に通学している児童との交流 園児へ手紙とプレゼントを作成し渡した。 学区でボランティアを行っている方々を招き、感謝を伝える会を行う
	28	大門小学校	A-①-イ B-①-エ A-①-カ	ピオだいもんコンサート しめ縄広報活動 北・岩津ブロック子どもと親の集い交流会	3年生が地域の方々をお招きし音楽コンサートを開いた。その際に摘んだ茶葉で緑茶を振舞った。 4年生が学区の方々と一緒に、しめ縄組合から寄贈されたしめ縄にメッセージを添えて道路を通行するドライバーへ配った 特支学級の児童と保護者が岩津小学校に出向き北・岩津ブロックの小中学校の特支学級の児童と親が交流した
	29	矢作東小学校	A-①-イ	ふれあいの会	地域のお年寄りの方に昔遊びを教えてもらう
	30	矢作北小学校	A-①-エ A-①-イ A-①-イ	福祉実践教室 学区敬老会 学区ボランティアさん感謝の会	高齢者や障がい者体験をし、自分に何ができるか考えた 音楽部が演奏を披露した。 日頃お世話になっている交通指導員さんや地域の方へお礼や手紙、記念品を手渡した
	31	矢作西小学校	A-②-ア A-①-ア A-①-エ	総合発表 敬老活動 福祉実践教室	5年生が福祉について調べたことや体験活動を通して学んだことについて共有した。 全校児童よりお祝いの手紙を贈った。 5年生が車いす、高齢者体験を行い、自分にもできる手助けを考えた
	32	六ツ美南部小学校	A-①-カ A-①-エ A-③-イ	学区福祉委員会講話 福祉実践教室 能登半島地震災害義援金の募金活動	学区福祉委員会より講師を招き、福祉に関する講演会を実施した 外部講師を招いた福祉実践教室の実践をした JRC委員会を中心に、能登半島復興のため募金活動を行った。
	33	城南小学校	A-①-イ A-①-エ A-①-イ	城南学区敬老会 福祉実践教室 昔の遊びの会	学区の高齢者への手紙を書いたり、低学年児童の歌や金管バンド部の演奏を披露し長寿をお祝した 障がいのある人たちの生活の中での大変さを体験した 学区のお年寄りから昔の遊びを教えてもらうことを通じて交流し、その後もお礼の手紙を贈った

34	上地小学校	A-③-ア	赤い羽根募金	JRA委員会の呼びかけにより、赤い羽根募金活動に参加し募金を集めた
		A-①-エ	福祉実践教室	手話・車いす体験・高齢者疑似体験・視覚障がい者ガイドの体験を行った
		A-③-ア	ベルマーク	JRA委員会の呼びかけにより、ベルマークを収集し整理した。
35	小豆坂小学校	B-①-エ	「歩こう会」との交流	学区の「歩こう会」とともに地域のごみ拾いをしながら交流を深めた
		A-①-イ	敬老会への手紙	全校児童が学区に暮らす高齢者に手紙を書いた
		A-①-イ	感謝の会	スクールカード、読み聞かせなど、日頃お世話になっている方へ感謝として手紙とバッチを渡した
36	六ツ美西部小学校	A-①-ア	敬老会掲示物	全校の児童で学区の高齢者の方に敬老のお祝いメッセージを書いて掲示した
		A-②-ウ	自分たちにできるSDGs	自分たちにできるSDGsとして特に福祉に関して模造紙などにまとめて発表した
		A-②-イ	福祉に関する各種調査	総合学習において福祉に関する調査を行った
37	豊富小学校	A-①-キ・オ	米作り体験・販売活動	学校近くの田で米作り。農林業祭で米を販売
		A-①-カ	野菜の種まき体験	地域の高齢者の方と野菜の育苗、栽培を通して交流した
		A-①-オ	福祉実践教室	手話や点字などの体験
38	夏山小学校	A-①-カ	農業体験	地域の方と一緒に色々な作物を栽培し、収穫したものを調理して食べ交流を深めた
		A-①-キ	鮎つかみ取り・塩焼の会	地区の福祉委員会的主催で、鮎つかみ取りをし、地域の方と交流しながら会食した
		A-①-カ	餅つきの会	育てたもち米を使い、地域の方と一緒に餅つきをして、雑煮を作り、地域の方に振舞った
39	宮崎小学校	A-①-イ	お茶摘み会	地域の高齢者グループ・保護者と一緒に校庭にあるお茶の木から茶摘みを行った。
		A-①-イ	みやざき音楽会	全校児童が学区の方々に合唱や演奏を披露する
		A-①-カ	みやざき敬老まつり	敬老会に集まった高齢者の方々へお茶を淹れたりや合唱を送った。また昔遊び等で交流した。
40	形埜小学校	A-①-イ	ササユリ、ウサギ、カブトムシを育てる	地域の方を講師に迎え、育てた
		A-①-キ	地域の方へ花の鉢植えをの贈呈	登下校を見守ってくれる地域の方へ、花の鉢植えを贈り、感謝の気持ちを伝えた
		A-①-イ	形埜地区敬老会に参加	1～3年生はコースターを作成しお渡しした。4～6年生は「額田小唄」を会場で披露した。
41	六ツ美中部小学校	A-①-ア	敬老会交流絵手紙	全校児童が、学区の高齢者に絵手紙を書いた
		A-②-ウ	総合学習「ともに生きる～学ぼう社会福祉～」	6年生が、学校環境を整えることなどバリアフリーについて考え実践した。
		B-①-エ	コスモスウォーキング	学区の人と交流しながら、コスモス畑をウォーキングした。
42	広幡小学校	A-①-キ	福祉教育プログラム	高齢者や障がい者にとって住みよいまちづくりを身近なこととして捉え、何ができるかを考えた。
		A-①-ア	愛のレター作戦	地域の高齢者へお便り活動に取り組んだ
		A-①-イ	ボランティアの方に感謝する会	児童の見守りボランティアさんに感謝する会を開いた
43	下山小学校	B-①-イ	ササユリ交流(岡崎盲学校訪問)	ササユリのプレゼント、交流活動(自己紹介、学校クイズなど)
		A-①-エ	福祉実践教室	ゴールボール体験
		B-①-イ	岡崎盲学校との交流会	ゲームなどで学年別交流活動を行った
44	秦梨小学校	A-①-ア	地域高齢者へのお便り活動	全校児童が学区の75歳以上の高齢者に手紙を書いて敬老を祝った
		A-①-イ	障がい者を講師として招く講演会、ポッチャ体験会	元パラリンピック選手を招きポッチャ体験と講演を聞いた。地域の方と協力し車いすスロープを作り設置した。
45	甲山中学校	A-②-ウ	ポスター作成	回収活動のためポスターなどを作成した
		A-③-ウ	アルミ缶、ペットボトルキャップ、ブルタブ、コンタクトレンズケースの回	ペットボトルキャップはワクチンに、アルミ缶は資金に、ブルタブは車いすに、コンタクトレンズケースは視覚障がい者支援に
		A-③-イ	ユニセフ募金	募金活動をし、10,917円をユニセフに募金した
46	美川中学校	B-①-ア	福祉施設等への訪問・交流事業	育てた野菜や紙漉きで作った年賀状、毛糸での作品を学区内の社会福祉施設に届けた
47	南中学校	A-②-ウ	地域防災マップの調査作成、配布	防災マップの作成。家庭などでの防災対策の説明を行った。
48	葵中学校	B-①-エ	伊賀川プロジェクト	伊賀川を清掃し、花の球根を植え、地域環境福祉に貢献した
		A-③-オ	ひまわりプロジェクト	資源回収や、募金活動を行い、被災地支援、福祉活動に貢献した
		B-①-エ	葵中ボランティア隊	学区総代からの呼びかけに有志の生徒が防災訓練、避難訓練、文化祭の補助等の活動に貢献した。
49	城北中学校	A-③-イ	ユニセフ募金	生徒会が全校放送でユニセフの活動について紹介し募金を呼びかけ、活動を行った。
		A-③-イ	“届けよう服のチカラ”プロジェクト衣服支援活動	ユニクロが開催する講座にて難民への衣服支援について学び、着なくなった衣服を回収し寄附した。
		A-③-イ	不用品の再利用および物資支援活動	使わなくなった文房具を回収し、NPO法人の支援活動を通じて発展途上国に向け発送した。

中 学 校	50	福岡中学校	B-①-エ A-①-カ A-①-イ	小学校区夏祭りボランティア ブロック交流会 教育講演会	小学校の夏祭りの模擬店の運営ボランティアに希望者を募り参加。また、オーケストラ部による演奏を行った。 福岡ブロックの特別支援学級の児童・生徒が福岡中に集い、交流活動を行った。 地域の高齢者を招き、1年生対象に地域の福祉や偉人についての講演を聞いた。
	51	東海中学校	A-①-ア B-①-イ B-①-ア	東部地域福祉センター訪問 岡崎特別支援学校との交流会 校外学習ユニバーサルデザイン探究	1年生が学区にある東部地域福祉センターを訪問し利用者との交流や施設見学を行った。 オンラインでの交流後、岡崎特別支援学校の生徒を招いて交流会を行った。 1年生がユニバーサルデザインがどのような場所でのように活用されているかを調べる校外学習を行った。
	52	河合中学校	B-①-ア B-②-イ A-①-エ	かわいの里ケアハウス交流 福祉に関する調査 福祉教育プログラム	手作りうちわにメッセージを書き送ったり、クリスマスに向け、プレゼントを作成し、届け、交流した。 特別支援の生徒が校外活動の報告や製作活動を行った。 手話と点字の学習を行った
	53	常盤中学校	A-①-ア A-③-ア A-③-イ	ふれあい教室 ペットボトルキャップ、コンタクトレンズケース等の収集 災害による被災地への義援金の送付	絵手紙制作を行い、作品を長寿者地域交流でプレゼントした 生徒会を中心に収集活動を行うとともに、どのように活用されているかの紹介を行った 生徒会で能登半島地震への義援金の送付を呼びかけ、集めた募金を送付した。
	54	岩津中学校	A-①-イ B-①-エ B-①-イ	岡崎聾学校との交流 岩中ボランティアデー 特別支援学級ブロック交流会	岡崎聾学校と、スポーツやゲーム、文化祭での美術作品の展示にて交流した 地域の方と岩津城址の整備活動を通しての交流 特別支援学校、学級児童生徒との交流
	55	六ツ美中学校	A-③-ウ A-③-ウ A-③-ウ	ブルトッブを集めて車いすを贈ろう 能登半島地震募金活動 エコキャップ収集活動	ブルトッブを回収して、車いすを寄贈する活動に参加した 石川健を通じて、被災地に募金を送る活動に参加した 途上国にワクチンを贈る活動に参加した
	56	矢作北中学校	B-①-エ A-③-イ A-②-ア	「お役に立ち隊」学区美化活動 能登半島地震義援金募金 人権集会	学区の美化活動を通じてボランティア活動を体験した。 全校生徒から義援金を募り、岡崎市災害義援金事務局を通して現地へ送った。 人権集会をし、モニュメントの作成や講演会を行った
	57	新香山中学校	B-②-ア・オ B-①-エ B-①-ア	ササユリ保護活動 親子リサイクル活動 北部地域福祉センター訪問	ササユリの栽培と学区の保護地区の清掃や落ち葉拾いを行い保護活動を実施した 保護者の力を借りて、お年寄り家庭の新聞紙回収等山間部のご家庭まで回収し助け合っている。 栽培した鉢花を持って、高齢者宅を訪問し、話をしたり、トランプマジックを披露したりし交流を図った。
	58	竜南中学校	B-①-エ A-①-カ A-③-イ	地域防災ワークショップ 認知症サポーター養成講座 ユネスコ協会SDGs ボランティア活動報告会	災害時に竜南中が避難所となる際に中学生としてできることを考えた 高齢者センターの方より認知症の方との接し方について学んだ 名古屋でボランティア活動報告会に参加し意見交流を行った
	59	北中学校	B-①-エ B-①-エ A-②-ウ	ミニボラ活動 学区敬老会 福祉ポスター・教護・体験作文応募	学区の運動会やバトミントン大会、インディアカ大会の補助ボランティアを行った。 ソーランの発表とミニコンサートを行った。 大門学区明るい町づくり作品、岡崎市明るい社会づくり作品、人権を理解する作品
	60	翔南中学校	A-②-ウ A-③-ア A-③-イ	福祉体験作文コンクール 赤い羽根募金 能登半島地震募金活動	国語科の授業で作文を書いたものの中で福祉体験に関する作品をコンクールに応募した。 全校生徒に呼びかけ協力した 生徒会主催で能登半島に対する募金を呼びかけ、全校生徒が協力した
高 校	61	岡崎東高等学校	B-①-イ A-①-キ A-①-イ	みあい特別支援学校・岡崎特別支援学校との交流会 第一回ふれあいショップ 福祉教育プログラム	各校において、レクリエーションやゲーム、花壇の整備などを通じて交流した 地域の障がい者事業所とJRC部が共同して校内で販売を行い交流した。 障がい当事者の方の日常生活と一緒に調理をしながら体験した。
	62	岡崎工科高等学校	B-①-エ B-①-エ A-③-オ	交通安全ボランティア活動 なごみん横丁ボランティア参加 能登半島地震義援金募金活動	周辺の小学校への登校時の交通安全活動 なごみん横丁ボランティアに参加し地域の小学生と交流 能登半島地震義援金募金活動を行った
	63	人間環境大学附属岡崎高等学校	B-①-ア B-①-ア B-①-ア	介護理解促進福祉事業 米山寮ボランティア あいけい運動会	県が取り組んでいる「介護理解促進福祉協力事業」の協力校に伴う活動 施設内でのボランティア 愛恵協会が毎年主催している運動会
	64	岡崎城西高等学校	B-①-ア B-①-ア A-③-エ	きらキッズ・きららぶち・おでかけきらきらキッズ・料理教 中央地域福祉センター各種行事 6月大雨災害ボランティア	おもちゃ図書館きらら主催による発達障がい児支援活動 中央地域福祉センター主催の高齢者人生ゲーム体験や小学生宿題のお手伝いなど 美合地区の大雨災害支援のボランティア活動
	65	光ヶ丘女子高等学校	A-①-エ B・A-①・②-ア A-③-オ	福祉実践教室 奉仕活動 10円募金	点字、手話、車いす、高齢者疑似体験などの実践教室 福祉施設へ訪問し、手作りプレゼントを贈ったり、福祉に関する講演会、学校近隣清掃を行った フィリピンの子どもたちや、タイに住むミャンマー難民キャンプの子どもたちの教育費を支援
	66	岡崎西高等学校	B-①-ア A-②-ア A-③-ア	あいけい運動会 学校祭での活動発表 能登半島地震のための募金活動	母子支援施設や特別養護老人ホームなどを訪問して交流した 活動の概要紹介 学校内での募金活動

小 中 高 等 学 部	67	岡崎盲学校	A-①-キ	小学校交流	下山小、三島小とレクリエーションやスポーツを通じて交流を行った。
			A-①-キ	中学部交流	竜海中学と点字やガイドヘルプの体験、ゲームやスポーツを通じて交流を行った
			A-①-カ	高等部交流	光ヶ丘女子高と、ダンスやゲームで交流をした
	68	岡崎聾学校	B-①-イ	学校間交流会	レオナ第二幼稚園、恵田小学校との交流
			B-①-エ	地域交流センターにおける手話講座	学区の交流センターにて地域の方に本校の様子や手話の魅力を伝える交流
			B-①-ア	北部地域福祉センターにおける交流	地域の高齢者の方とのボランティア交流
	69	岡崎特別支援学校	A-①-カ	本宿小との交流	直接交流、自己紹介・レクリエーション
			A-①-カ	三谷水産高校との交流	直接交流。三谷水産高校生徒の企画による活動
			A-①-カ	東海中との作品交流	直接交流、レクリエーション、作品での展示交流
	70	みあい特別支援学校	A-③-オ	エコキャップ収集活動	エコキャップ収集を行い、回収会社を通してアフリカの子どもたちへポリオワクチンを贈る
			A-①-カ	中学部学校間交流	竜南中と手紙交流・ビデオ交流した
			A-①-カ	学校花壇整備交流	高等部清掃緑化班と会園芸部の生徒が岡崎東高校の生徒や地域のボランティアと苗の育成や花壇の整備を行った。
	71	愛知教育大学付属特別支援学校	A-①-カ	附属岡崎小との交流	サツマイモの定植から収穫、ゲーム、各種行事でのプログラム交換を通じて交流した
			B-①-エ	ふよう美術展のポスター配付	近隣の小中学校や店舗、公共施設に訪問。主催の美術会のポスター配付

児童・生徒の福祉実践教室実施要綱

1. 目 的

福祉実践教室は、児童・生徒が障がい者・高齢者から講話を聞き、実際に疑似体験することによりさまざまな人が暮らしている地域社会で相手の立場を理解し、思いやりの心を育み、『人にやさしいまちづくり』として日常的な福祉活動を実践するための契機として開催する。

2. 実施主体

岡崎市社会福祉協議会 ボランティアセンター

3. 実施対象

岡崎市社会福祉協議会の指定を受けている福祉教育推進校及び福祉実践教室の目的に賛同し、実施を希望する小・中・高等学校等（以下「実施校」という。）の児童・生徒。

4. 実施期間

4月1日～3月31日

5. 実施内容

車いすガイド、手話、点字、要約筆記、視覚障がい者ガイド、高齢者疑似体験、盲導犬、発達障がい、いじめ防止

6. 申 請

原則として、実施日の2ヶ月前までとする。

7. 経 費

この事業に要する経費は、岡崎市社会福祉協議会の負担とする。

8. 手続き及び詳細については、裏面『福祉実践教室のすすめかた』参照のこと。

【お問い合わせ先】

岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンター

TEL 0564-47-7955 FAX 0564-47-7956

E-mail vc@okazaki-shakyo.jp

ホームページ URL <https://okazaki-shakyo.jp/volunteer>

福祉実践教室のすすめ方

福祉実践教室の目的にもあるとおり、各メニューには必ず「対象者」がいます。その対象者がどのような状態にあって、どのようなサポートが必要なのか？を起点として紹介させていただいているメニューであることをご理解いただいたうえ、所定の手続きをお願いいたします。

①福祉実践教室の開催候補日、実施希望科目をある程度考えていただいたうえ、社会福祉協議会ボランティアセンターまで電話でお申込みください。申込期限は実施日の2ヶ月前です。

②担当教諭と社協担当者と、日程等の打ち合わせをします。（電話かメール）

③実施計画書の作成及び提出

実践教室様式①・1～③を「岡崎市社会福祉協議会ホームページ」→【ボランティア】→【ボランティアセンター】→【各種ダウンロード】→福祉実践教室【提出様式一式】からダウンロードし、作成してください。提出については、社会福祉協議会ボランティアセンターにメールにて提出してください。

④講師の決定

各科目の講師を社会福祉協議会ボランティアセンターで調整し、決定いたします。講師の決定後、当日の講師の氏名、講師の所属団体長（担当者）の氏名と連絡先を学校にお知らせします。講師の所属団体長（担当者）と授業の詳細について打ち合わせを行ってください。

⑤用具の貸出しについて

実践教室で必要となる車いすや点字板等は社会福祉協議会から貸出し可能です。原則として実施日の前日に社会福祉センターまで取りに来ていただき、当日返却をお願いします。

⑥講師の送迎について

講師の送迎を学校にお願いする場合があります。

⑦講師料について

講師料は、社会福祉協議会が負担します。

⑧実施報告書の提出について

実践教室実施後2週間以内に、実践教室様式④をボランティアセンターホームページよりダウンロードし、社会福祉協議会ボランティアセンターに提出してください。

令和 5 年度 福祉実践教室実施状況

R5 年度実績

小学校・・・15校

中学校・・・0校

高 校・・・2校

合 計・・・17校

(延べ開催日数28日)

延べ 6, 320人

R4 年度実績

小学校・・・15校

中学校・・・0校

高 校・・・3校

合 計・・・18校

(延べ開催日数33日)

延べ 5, 197人

R3 年度実績

小学校・・・7校

中学校・・・1校

高 校・・・2校

合 計・・・10校

(延べ開催日数14日)

延べ 3, 358人

中 止・・・4校

【科目別】(延べ)

科目	日数	時間数	人数
車いす	21	38	1194
手話	14	26	878
要約筆記	5	9	287
点字	6	12	390
盲導犬	2	2	219
視覚障がい者ガイド	17	30	972
発達障がい	2	3	85
高齢者疑似体験	17	32	1045
いじめ防止	1	1	119
全体講話	12	12	1131

(前年度実績)

日数	時間数	人数
20	33	1042
13	21	801
3	6	262
7	13	518
1	2	70
8	15	619
2	2	140
20	34	1040
3	5	390
4	4	315

【学校からの感想】(一部抜粋)

●小学校

- ・車いす体験によって、補助の正しい仕方や声のかけ方、補助される側の気持ちを体感して学ぶことができた。また、講師の体験談もあったため、一生車いすで生活することの過酷さや周囲の人間の配慮の必要性など、深く学ぶことができた。
- ・耳が聞こえない方が生活で使う道具の実物があったため、児童も耳が聞こえない方の困る場面を考えやすかった。手話を通して、相手に伝えたい、役立ちたいという気持ちをもつことができた。
- ・テレビ画面に絵や図を使って自閉症の児童の言動を解説してくれたところが分かりやすかった。講師のお子さんの画像もたくさんあり、よりリアルに生活が伝わってきました。ビニール袋をつけての折り紙折り体験も面白かったですが、やや急いだ感じがあったため、折る時間を長くとり、振り返りの感想を広げるとよりよかった。
- ・高齢者の体の動かしにくさ、視界の狭さ、色の識別の難しさなどを、身をもって体験できる、貴重な機会でした。子供たちは、高齢者が普段、どのような状況で生活されているのか、ということがよく理解でき、手助けの必要性や、声掛けの大切さを学ぶことができた。

- ・盲導犬について、「盲導犬は、信号の色が分かるでしょうか？」という質問に、多くの子が「分かる」と答えていた。道路を横断する時は、周りの音や人の動きを聞いて渡ると聞いて、とても驚き、どんなことを、どんな風に手助けをして欲しいかなども教えてくださり、子供たちからは、これからは横断歩道などで声をかけてあげたいと思った。
- ・講師の方が子供たちの視覚障がいガイドの様子を見て、称賛の声掛けをしてくださり子供たちは嬉しそうだった。視覚障がい者のお話は貴重でした。
ガイドの細やかな声掛けがとても大事なことに気付くことができました。
- ・言葉や情報を点字にうつことも難しく、大変なことだと感じた。講師の先生が点字の付いたカレンダーを見せてくださり、子供たちは実生活にも点字が根付いていることを感じ、点字への理解を深めることができた。
- ・日ごろから友だちの様子を気にかけて声をかけるなど、「いじめ」を防止するために、自分に出来ることを考えれる時間となった。

●高校

- ・今年は車いす当事者のみで少々不安がありましたが、問題なく実施できました。
少雨でしたが、うまく実施することができました。中庭に福祉車両を置いたため、多くの生徒に見てもらえたのも幸いでした。
- ・発達障がいの授業の最後の質問コーナーで今年も弱音の部分を書くことができ、生徒たちも衝撃を受けたようです。社会のすべての人たちが助け合わなければならないという思いを強く抱けた。
- ・トータルコミュニケーションを使って、聴覚障がい者の方と接していくことが大切だと思った。
- ・今後、聴覚障がい者の方に会い、困っている様子だったら手話やその他のコミュニケーションツールで関わっていきたい。
- ・要約筆記があることを知り、実際に体験をしてみて、伝えなくてはならない情報を正しくまとめるのは非常に難しかったですが、手話のできない人でも、ペンと紙を持って要約筆記は挑戦できるかなと思った。

福祉実践教室教員向け研修会 日程表

日	時 間	内 容
8月6日（火） 社会福祉センター	10:00	あいさつ・オリエンテーション
	10:10	『発達障がい』 講師：自閉症啓発キャラバン Swing
	10:55	休憩
	11:05	『いじめ防止』 講師：ゲートキーパー リボーン岡崎
	11:50～12:00	アンケート記入・終了

8月6日（火） 社会福祉センター	13:00	あいさつ・オリエンテーション
	13:10	『点字』 講師：点訳木曜会
	13:55	休憩
	14:05	『視覚障がい者ガイド』 講師：岡崎ひとみ会
	14:50	休憩
	15:00	『盲導犬』 講師：盲導犬利用者
	15:45～15:55	アンケート記入・終了

日	時 間	内 容
8月9日（金） 社会福祉センター	10:00	あいさつ・オリエンテーション
	10:10	『要約筆記』 講師：岡崎市難聴・中途失聴者の会 OHP おかざき
	10:55	休憩
	11:05	『手話』 講師：岡崎市聴覚障害者福祉協会 岡崎市登録手話通訳者
	11:50～12:00	アンケート記入・終了

8月9日（金） 社会福祉センター	13:00	あいさつ・オリエンテーション
	13:10	『高齢者疑似体験』 講師：高齢者体験サポータークラブ
	13:55	休憩
	14:05	『車いす体験』 講師：ぼくらの障がい知ってもらい隊 アンダンテ
	14:50～15:00	アンケート記入・終了

福祉教育推進事業担当者会議 配付用

「福祉」の授業に取り組まれる 先生のためのハンドブック

～福祉教育プログラム集～

※ 学校保管



岡崎市社会福祉協議会
マスコットキャラクター

はぴりん

社会福祉法人 岡崎市社会福祉協議会
ボランティアセンター

はじめに

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会（以下、「社協」という。）では小学校、中学校、高等学校を対象に福祉実践教室を実施しています。福祉実践教室は、障がい者・高齢者などの当事者やその支援者と児童・生徒がふれあいながら、実際に障がい者や高齢者の疑似体験をします。様々な人が暮らす地域社会で相手の立場を理解し、思いやりの心を育む「人にやさしいまちづくり」として日常的な福祉活動を実践するための契機となるよう開催しており、多くの小学校、中学校、高等学校で実施されています。

今回、岡崎市教育委員会および福祉実践教室講師団体の皆様に御意見をいただきながら作成したこの「福祉」の授業に取り組まれる先生のためのハンドブックは、誰もが普通に共生できる社会を目指すノーマライゼーション(※1)の考え方や、当事者の生活機能に着目し、その方の強みや取り巻く環境にも目を向ける ICF（国際生活機能分類）(※2)の視点を意識し、疑似体験や当事者の話を中心に、事前の学習と事後の学習を含めた児童・生徒の気づきを発展させる福祉教育プログラムを提案しています。

児童・生徒が気づきを通して共に生きる力を育み、地域の一員として福祉への自発的・主体的な関わりが持てるようこの福祉教育プログラムを御活用いただければと思います。

よろしく
お願いします！

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会



もくじ

第1章 福祉教育プログラムのねらいと特徴

- 1 福祉教育プログラムと福祉実践教室の特徴とちがい・・・・・・・・・・ 2
- 2 学習指導要領と福祉教育プログラムによる学習のねらい・・・・・・・・ 3

第2章 福祉教育プログラム実施にあたって

- 1 福祉教育プログラムの活用方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 2 福祉教育プログラム実施の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 3 福祉教育プログラム相談チェックシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第3章 福祉教育プログラムの基本プラン

- プラン1：「ふくし」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ1－1
- プラン2：「高齢者」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ2－1
- プラン3：「車いす」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ3－1
- プラン4：「視覚障がい」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ4－1
- プラン5：「聴覚障がい」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ5－1
- プラン6：「発達障がい」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ6－1
- プラン7：「赤い羽根共同募金」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ7－1
- プラン8：「防災を通して地域の支え合いを学ぶ」・・・・・・・・・・ プ8－1
- プラン9：「避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える」・・ プ9－1

全プログラム共通：福祉教育プログラムふりかえりシート

様式集

用語集

※1 ※2 用語集

第1章

福祉教育プログラムの ねらいと特徴

- 1 福祉教育プログラムと福祉実践教室の特徴とちがい
- 2 学習指導要領と福祉教育プログラムによる学習のねらい

福祉教育プログラムと福祉実践教室の特徴とちがい

【福祉教育プログラムの特徴】

福祉教育プログラムは「ふくし」、「高齢者」、「車いす」、「視覚障がい」、「聴覚障がい」、「発達障がい」、「赤い羽根共同募金」、「防災を通して地域の支え合いを学ぶ」、「避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える」の9つの基本プランがあり、事前学習、体験学習、事後学習を一連としたプログラムとして考え、児童・生徒が障がい当事者や地域活動者と一緒に福祉についての学びを深めます。

福祉教育プログラムには事前学習と事後学習も含まれているよ！



【福祉実践教室の特徴】

福祉実践教室は「車いす」、「点字」、「視覚障がい者ガイド」、「盲導犬」、「手話」、「要約筆記」、「高齢者疑似体験」、「発達障がい」、「いじめ予防」の9つの体験内容があります。事前学習や事後学習は学校の先生が独自で行い、体験学習を社協から派遣する講師によって行っています。

疑似体験を通して、先生が行う事前学習や事後学習の学びを深めます。

【福祉教育プログラムと福祉実践教室のちがい】

	福祉教育プログラム	福祉実践教室
講師料	不要	不要
打合せ回数	状況に応じて	1回
実施日数	希望に応じて	1日～3日
授業の選択内容	9つの基本プラン	9つの体験
授業内容の自由度	高い	低い
授業計画の作成	社協	学校
体験用具の貸出	あり	あり
事前学習	あり	なし
体験学習	あり	あり
事後学習	あり	なし

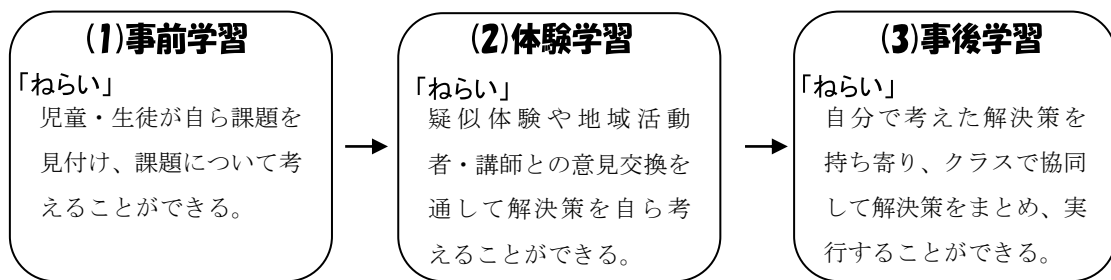
学習指導要領と福祉教育プログラムによる学習のねらい

【学習指導要領と福祉教育プログラムの関係性】

1. 学習指導要領(総合的な学習の時間)の目標は、五つの要素から構成されています。
 - (1)横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと。
 - (2)自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること。
 - (3)学び方やものの考え方を身に着けること。
 - (4)問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること。
 - (5)自己の生き方を考えることができるようにすること。
2. 福祉教育プログラムは3つの段階に分けて学習します。
 - (1)事前学習では、地域で私たちと暮らす障がい者や高齢者の生活に焦点をあて、個人ワークを行ったり当事者の話を聞いたりします。
 - (2)体験学習では、疑似体験や児童・生徒同士、地域活動者、講師と意見交換を行います。
 - (3)事後学習では、今までの学びや考えた解決策をグループワークや発表で共有し、今後の活動に繋げます。

下図の通り、本誌は学習指導要領の目標（五つの要素）に沿って作成しています。

〈図〉



「目標」

地域で暮らす障がい者や高齢者を理解し、
地域の一員として自分や地域で何ができるかを考え、共に生きる力を育む

【使いやすい福祉教育プログラム】

プログラムの実施にあたり、総合学習の時間で「福祉」を選択される先生が持つねらいや希望の学習内容を社協担当職員が聞き取りながら、一緒に独自のプログラムを作成していきます。プログラム作成の事務的作業は社協担当職員で行うため、学校業務で多忙な先生の負担を極力減らすことができます。

また、講師の講話や疑似体験を通して児童・生徒が命の大切さや生きる力を学ぶことができるため、総合的な学習の時間のみでなく、道徳や特別活動等の他教科における指導計画と関連付けてこの福祉教育プログラムを活用してください。

福祉の授業に取り組まれる先生は、まず社協にご相談を！



【福祉教育プログラムのこれから】

今回作成した福祉教育プログラムは実施校からのアンケートや講師からの意見をもとに随時、修正や追加をしていきます。今後は地域の福祉施設に訪問したり、地域活動者と一緒に地域で活動してみたりといった新たなプログラムの開発や今あるプログラムの発展に取り組んでいきます。

第2章

福祉教育プログラムの 実施にあたって

- 1 福祉教育プログラムの活用方法**
- 2 福祉教育プログラム実施の流れ**
- 3 福祉教育プログラム相談チェックシート**

福祉教育プログラムの活用方法

福祉教育プログラムの基本プラン1～9は福祉実践教室の実施が多い小学校5年生を対象に作成していますが、小学生から高校生までの**希望する学年に合わせたプログラムを先生の要望を聞き取りながら一緒に考えていくため、小学校・中学校・高等学校と幅広く実施することができます。**

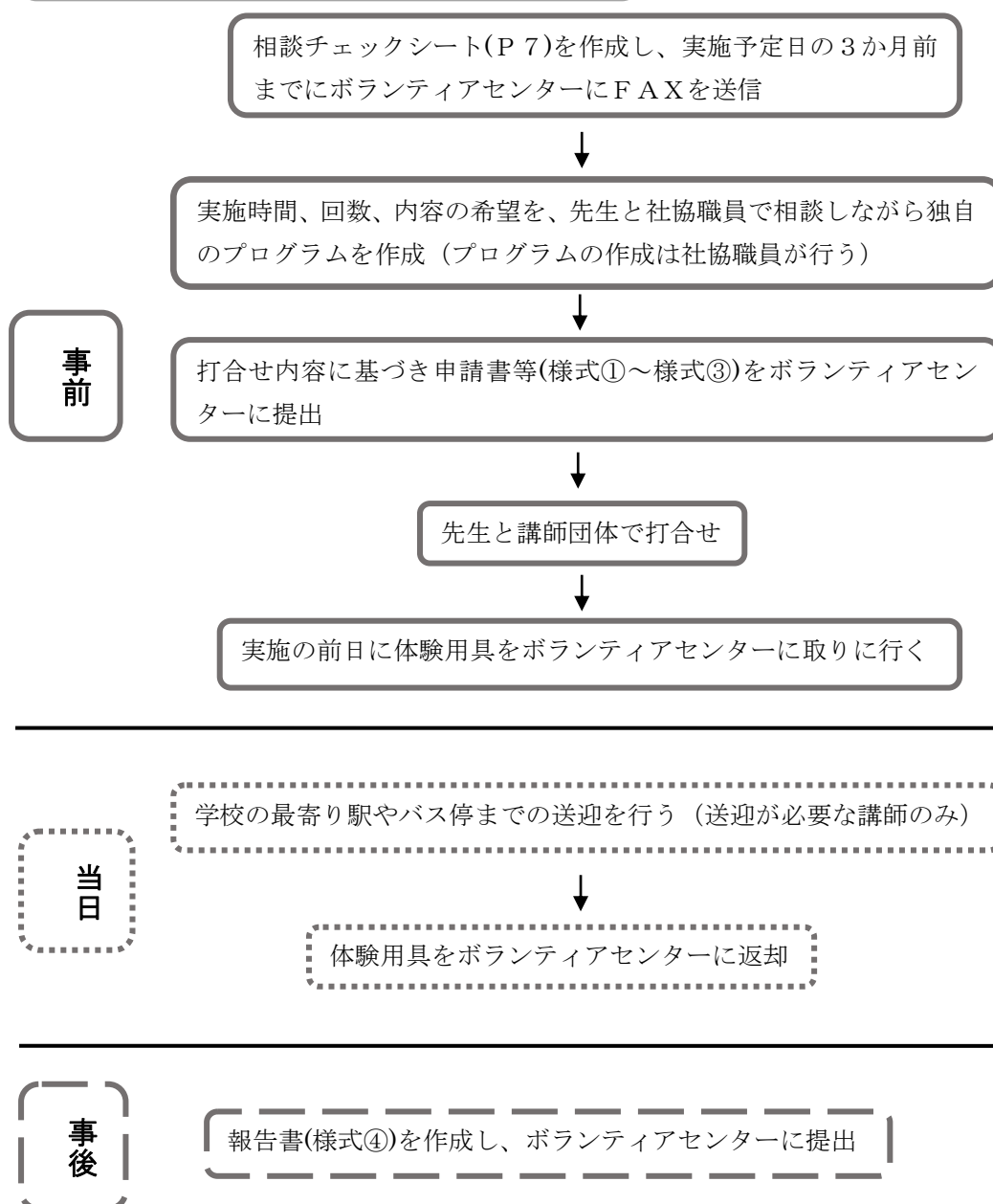
また、福祉教育プログラムの基本プランには時間や回数が記載されていますが、**学校の希望する時間や回数にできる限り合わせながらプログラムを作成することも可能です。**

福祉教育プログラム実施の講師派遣に係る費用(講師料や交通費)は、社協で負担しますので授業で使用する備品等の準備のみで実施することができます。

先生と一緒に福祉の
授業を考えます！



福祉教育プログラム実施の流れ



福祉教育プログラム相談チェックシート

福祉教育プログラムを活用していただく前にこのシートを作成し、社協に送信してください。このチェックシートをもとに打ち合わせを行います。

まずはお気軽にご相談ください。

学校の情報	_____ 小学校・中学校・高校 学校の電話番号 _____ F A X _____ 担当の先生の氏名 _____ 先生のメールアドレス _____
目的・ねらい 子どもたちに伝えたいこと 学ばせたいこと	
希望する内容	☐ ふくし ☐ 高齢者 ☐ 車いす ☐ 視覚障がい ☐ 聴覚障がい ☐ 発達障がい ☐ 赤い羽根共同募金 ☐ 防災を通して地域の支え合いを学ぶ ☐ 避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える ☐ その他
実施予定日 現在の予定	【時期】 ☐ 通年 ☐ 1 学期 ☐ 2 学期 ☐ 3 学期 【回数】 ☐ 2 回講座 ☐ 3 回講座 ☐ それ以上 ____ 回講座
対象と人数	☐ 全校で行う 約 ____ 名 ☐ 学年で行う ____ 年生 約 ____ 名 ____ クラス ☐ 学級で行う ____ 年 ____ 組 約 ____ 名 ☐ その他 _____
その他	福祉教育で悩まれていることなど、どんな事でもご自由にお書きください。

【相談チェックシートご提出先】

岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンター

〒444-0802 岡崎市美合町五本松 68-12

TEL : 0564 - 47 - 7955 FAX : 0564 - 47 - 7956

E-mail : vc@okazaki-shakyo.jp

ご連絡をお待ち
しています！



第3章

福祉教育プログラムの 基本プラン

プラン1 : 「ふくし」

プラン2 : 「高齢者」

プラン3 : 「車いす」

プラン4 : 「視覚障がい」

プラン5 : 「聴覚障がい」

プラン6 : 「発達障がい」

プラン7 : 「赤い羽根共同募金」

プラン8 : 「防災を通して地域の支え合いを学ぶ」

プラン9 : 「避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える」

全プラン共通 : 福祉教育プログラムふりかえりシート

高齢者

【モデル対象】 小学校 5 年生

【時間】 90 分 × 3 回

ねらい

高齢者が当たり前に生活できる地域社会の実現のため、地域の一員としての使命と役割があることを認識し、自覚が持てるようになる

学習計画

	授業テーマ	想定講師	学習内容
①	高齢者の生活を知ろう	・ 社協職員 ・ 地域住民	・ 高齢になるとどうなるか ・ 地域での高齢者福祉を知る ・ 高齢者の生活を知る ・ 高齢者の福祉用具の紹介 ・ 困りごとを考える
①	高齢者疑似体験をしてみよう 	・ 講師団体	・ 2 人 1 組になって疑似体験をする ・ 困りごとの検証 ・ どうすれば困りごとを解決できるかグループ討議 ・ 自分たちにできることを考える
②	僕たち、私たちにできることを考えよう	・ 社協職員 ・ 地域住民 ・ 学校の先生	・ まとめ ・ グループ討議…グループごとに自分たちの感想、できること、意見等を述べる ・ また、今後どうしていったら良いかを話し合う ・ 話し合いをまとめ、発表する ・ 評価

目標

- ・ 講話を通して、日常生活などの話を聞き、困りごとを考えることができる（関心・意欲・態度）
- ・ 自分やグループ、クラスで高齢者の困りごとや解決策を考えることができる（思考・判断・表現）
- ・ 体験を通して「加齢」を理解したうえで、自分たちにできることを考え、行動することができる（技術）
- ・ 高齢者の理解と自分たちの出来ることをまとめ、発表することができる（知識・理解）

ねらい・ポイント	準備物品	先生へのお願い
・ 高齢者のイメージをつかめる ・ 高齢者の生活を知る ・ 加齢のために困ることを考える	・ 福祉用具	・ グループ分け
・ 高齢者の特徴や不便さを感じる ・ 困りごとを解決する方法を考える ・ みんなの前で意見を述べることができる ・ 思いや考えが違っていても、受け入れ、歩み寄ることの大切さを知る ・ 自分たちができることはあるのか考えられる	・ 体験用具 ・ 模造紙 ・ 付箋	・ 必要物品の用意 ・ 児童のペア組み ・ 体験コースの決定
・ 高齢者のことを理解し、感じたこと、できることをまとめる ・ みんなの前で発言することができる ・ 思いや考えが違っていても、受け入れ、歩み寄ることの大切さを知る ・ 地域の一員としての使命と役割を考える	・ 模造紙 ・ マジック ・ 画用紙	・ 必要物品の用意 

① 高齢者の生活を知ろう 90 分

目標

「高齢者とは」を学び、高齢者が生活の中でできること、大変なことをイメージする

想定される講師と準備物

講師：社協職員、地域住民

備品：福祉用具

プログラム

学習活動	時間	指導上の留意事項
◎高齢になるとどうなる？ ・高齢になると体や心はどうなるかを考え、発言する	10	・家族や近所の高齢者をイメージさせ、体や心の変化を感じられるようにする ・心の面は思いつきづらいので様子を見てヒントを出す ・意見が出ないときはクイズにする
◎地域での高齢者福祉って？ ・地域での福祉活動について話を聞く	20	・学区福祉委員会の存在を伝える ・地域で実際に活動している人の話を聞き、持っていたイメージと実際との違いを感じさせる ・地域の高齢者の現状と、それに関わる活動の内容や大変さを伝える
休憩	5	
◎高齢者の生活を知ろう ・高齢者の生活の話を聞く ・高齢者が生活の中で感じる困りごとや思い通りにいかないことなどの話を聞く	10 10	・話のなかで知っていたこと、知らなかったことに気付かせる ・高齢者が感じる苦労や、思い通りにいかないことなどを聞き、高齢者が持つ困りごとに気付かせる ・地域に住む高齢者がどんなことに困っているのか感じさせる
◎できること、大変なことを考えよう ・自分たちと同じところや違うところを挙げる	20	・グループに分ける ・できることの気付きを大切にコメントする
◎高齢者が使用する福祉用具って？ ・高齢者が使用する福祉用具の説明を聞く ・使い方や効果の話を聞く	15	・あまり答えが出過ぎないように紹介は少しにし、使い方や効果、それぞれの福祉用具について気を付けることなどを伝える ・困りごとの解決にはいろいろな方法があり、福祉用具などの道具があることを伝える
◎高齢者の困りごとを考えよう ・高齢者が感じる困りごとや、児童自身が感じた高齢者が大変そうだと思うことを考える	宿題	・高齢者の持つ困りごとについてよく考えてもらおうきっかけにする

②高齢者疑似体験をしてみよう 90 分

目標

高齢者疑似体験を通して、高齢者の特徴や不便さを実体験する
前回考えた困りごとに対して解決策を考える

想定される講師と準備物

講師：講師団体

備品：高齢者疑似体験セット、模造紙、付箋

プログラム

学習活動	時間	指導上の留意事項
◎高齢者疑似体験をしてみよう ・部分的な体験の中から好きなものを選び体験する	4 5	・体験が遊びにならないように、体験の目的や意味をしっかりと伝える ・高齢者が感じる大変さや解決策のヒントを得るために考えてきた困りごとを実体験させる
休憩	5	
◎困りごとの解決策を考えよう ・グループに分かれ、一人ずつ自分が思った困りごとを発表し模造紙に書く ・グループで、誰が書いた困りごとでもいいので、思いつく解決策を付箋に書いて貼る	2 5	・いろいろな解決策を取り入れられるよう困りごとをグループで共有させる ・1つの困りごとに関してみんなで考えることで、グループ全員がより多くの困りごとや解決策を知り、考えることができるようにする
◎発表しよう ・みんなの前で、グループで挙げた困りごとと、付箋に書かれた解決策を発表する	1 0	・お互いに知識を深めるために、グループで話し合ったことを他のグループに伝えられるようにする ・グループでの考えの違いや解決策の違いの中で、方法は違っても受け入れ、歩み寄ることの大切さを感じさせる
◎宿題について ・場面設定や環境の説明を聞く	5	・すべての児童が、できることを考えやすいよう場面を設定する
◎自分が高齢者にできることを考えよう ・グループで挙げた困りごとの解決策を見て、実際に自分にできることは何か考える ・自分にできること、自分には難しいがお父さんやお母さん、地域の人ならできることを挙げてみる	宿題	・実際に自分にできることを考えることで家族や地域など、大人ができることを考えてもらうきっかけにする ・1日の復習の時間を作るために宿題を出す ・グループで出た解決方法をもとに自分なりにできることを児童主体で考えさせる

③僕たち、私たちにできることを考えよう 90分

目標

自分にできることを発表し、クラスメイトに紹介する
グループに分かれ、クラスとしてできることを考える

想定される講師と準備物

講師：社協職員、地域活動者、学校の先生
備品：模造紙、ペン、画用紙

プログラム

学習活動	時間	指導上の留意事項
◎自分ができることを発表しよう ・自分ができることをみんなに発表する ・いつ、何をやってみるのかを具体的に発表の中に入れる	30	・自分ができることを発表し、これから取り組むことをクラスメイトに知ってもらう ・すぐに取り組めることを挙げることで、積極的に取り組むきっかけにする ・難しいことではなく、簡単にできることを挙げてもらうように配慮する
◎社協職員、または地域活動者、または先生の話 ・発表に対しての感想を聞く	10	・たくさん褒めることでやる気と興味を持ち続けるきっかけにする ・これからの高齢者福祉の参考になるよう、専門的な話を入れながら伝える
休憩	5	
◎クラスでできることを考えよう ・グループに分かれ、クラスでできることを1つずつ考える	25	・自分だけでなく、クラスでできることを考えることで、協調性を身につけさせる ・一緒に1つのことを考える大切さを感じさせる
◎クラスのできることをルールを作ろう ・グループで考えたクラスでできることを1つ発表し、画用紙に記入する ・すべてのグループのできることを記入し、できごとルールを教室に掲示する	20	・クラスでできることを1つの紙に記し、高齢者と接するときに注意することや困っているときにできることを一人ひとりが確認できるようにする ・一人ではできないことも、たくさんの人が集まればできることがあるということを感じさせる ・クラスで考えることで他の授業にもつながる

令和5年度 福祉教育プログラム実施状況

資料 7

R5年度実績（延べ）

小学校・・・・・・・・・・9校
 中学校・・・・・・・・・・1校
 高 校・・・・・・・・・・3校
 合 計・・・・・・・・・・13校
 （開催日数103日）
 参加人数 4,386人

R4年度実績（延べ）

小学校・・・・・・・・・・7校
 中学校・・・・・・・・・・1校
 高 校・・・・・・・・・・2校
 合 計・・・・・・・・・・10校
 （開催日数67日）
 参加人数3,071人

R3年度実績（延べ）

小学校・・・・・・・・・・9校
 中学校・・・・・・・・・・1校
 高 校・・・・・・・・・・2校
 合 計・・・・・・・・・・12校
 （開催日数68日）
 参加人数3,350人

【科目別】（延べ）

令和5年度

プログラム名	日数	時間数	人数
ふくし（ユニバーサルデザイン）	27	46	1,453
高齢者	6	7	406
車いす	11	12	405
視覚障がい	16	18	639
聴覚障がい	18	24	729
避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える	26	31	777
その他（調理実習、地域向け）	2	2	108
講話（事前学習や事後学習など）	5	4	417

令和4年度

プログラム名	日数	時間数	人数
ふくし（ユニバーサルデザイン）	3	4	188
高齢者	7	9	419
車いす	8	12	435
視覚障がい	9	13	518
聴覚障がい	12	13	378
発達障がい	2	2	23
避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える	21	27	881
講話（事前学習や事後学習など）	18	18	434

令和3年度

プログラム名	日数	時間数	人数
ふくし（ユニバーサルデザイン）	10	10	556
高齢者	10	16	615
車いす	13	20	800
視覚障がい	13	21	719
聴覚障がい	15	21	620
発達障がい	1	1	19
避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える	16	17	255
講話（事前学習や事後学習など）	14	14	496

【学校からの感想】（一部抜粋）

●小学校

- ・体験だけでなく、講話でしっかり当事者の話をしてもらえるので、子どもたちがそれぞれの科目についてよく理解しているように感じる。
- ・当事者の話しが児童に響いたようで自分からできることを探す意見が多く挙がるようになった。
- ・障がいのある人はできないことが多いイメージをしていたけど、好きなことや得意なこともたくさんあることが分かった。

●中学校

- ・聴覚障がいのある方とのコミュニケーションの方法が色々あることが分かり、積極的に会話をしてみたいと思った。
- ・点字を打つことが難しかったが、点字が読める方にとっては大事な手紙になることがよく分かった。

●高校

- ・講話や体験を通してコミュニケーションがとり辛いことがあったり、一人で行動し辛いことがたまにあったりするだけで私たちと何も変わらないと感じた。
- ・調理実習を通して私たちよりも調理も上手で驚いた。障がいがあってもなくても様々な工夫でできることが多く、皆さんがそれぞれの当たり前的生活を送っていることが分かった。

愛 社 協 第 7 9 号
令 和 6 年 4 月 1 0 日

関 係 学 校 長 様

社会福祉法人愛知県社会福祉協議会
会 長 鈴 木 雅 雄
(公 印 省 略)

令和6年度福祉体験作文コンクールの実施について（依頼）

日ごろは、本会事業の推進にご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、令和6年度福祉体験作文コンクールを別添の要項により実施いたしますので、
ご応募くださいますようお願いいたします。

応募は、令和6年9月13日(金)までに学校のある市町村の社会福祉協議会にして
いただきますようお願いいたします。

(連絡先) 地域福祉部 担当 三浦

TEL 052-212-5502

FAX 052-212-5503

令和6年度福祉体験作文コンクール募集要項

1 趣 旨

児童・生徒が、学校内外で体験する福祉活動やボランティア活動は自己の幅を広げるための豊かな経験となるものであり、ともに生きる福祉の心を育ててくれるものです。

こうした経験を通して感じたことや考えたことを、素直な気持ちで作文に表わしたものが心に残り、日常生活の中で広がっていくことを期待して、福祉体験作文を募集します。

2 主 催

社会福祉法人愛知県社会福祉協議会

3 応募対象

趣旨に賛同する愛知県内（名古屋市を除く）の小・中・高等学校及び特別支援学校の児童・生徒

4 応募作品の内容

学校での福祉実践教室やボランティア活動等の体験、地域や家庭、身近なところでの体験について、自分の考えや感じたことを表現したものとしします。

5 部 門

- (1) 小学校低学年の部（1～3年生）
- (2) 小学校高学年の部（4～6年生）
- (3) 中学校の部
- (4) 高等学校の部

6 作品規定

- (1) 400字詰め原稿用紙（タテ書）を使用し、各部門の枚数制限は次のとおりとします。

ア 小学校低学年（1～3年生）	1～3枚以内（400字以上1,200字以内）
イ 小学校高学年（4～6年生）	2～4枚以内（800字以上1,600字以内）
ウ 中学校・高等学校	4～5枚以内（1,600字以上2,000字以内）

※題名は1行目、学校学年氏名は2行目、本文は3行目から1マス空けて書いてください。

- (2) 応募作品は、原則として自筆に限ります。ただし、障害等の場合はその限りではありません。その旨を明記してください。
- (3) 応募作品には、所定の応募票を添付してください。

7 応募規定

- (1) 小学校及び中学校の応募数は各部門2編以内、高等学校は3編以内とします。

（参考）

小学校低学年	1校につき	2編以内（1～3年生）
小学校高学年	1校につき	2編以内（4～6年生）
中学校	1校につき	2編以内
高等学校	1校につき	3編以内

- (2) 応募作品は、未発表のものに限り
- (3) 応募作品は、理由のいかんにかかわらず返却しません。
- (4) 応募作品の著作権は当会に帰属します。

8 4応募方法

下記の応募票を添付し、学校のある市町村の社会福祉協議会に令和6年9月13日(金)までに応募してください。

9 選 考

選考委員会を設けて、部門ごとに入選作品を合計25編程度選考し、令和7年2月(予定)に発表します。

10 表彰等

入選者には賞状、副賞及び優秀作品集を贈呈します。

11 作品集の作成等

入選作品を掲載した優秀作品集を作成するとともに、入選作品は愛知県社会福祉協議会ボランティアセンターのホームページに掲載します。

12 問合せ先

社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 地域福祉部
〒461-0011 名古屋市東区白壁1丁目50
TEL 052-212-5502 FAX 052-212-5503

..... き り と り
No. _____

年 月 日

令和6年度「福祉体験作文コンクール」応募票			
題 名			
フリガナ 学 校 名		学 年	年
フリガナ 氏 名		枚 数	枚

■地元の社会福祉協議会へ送付してください。

作品規定 400字詰め原稿用紙(タテ書)を使用し、各部門の枚数制限は次のとおりとします。

- ・小学校低学年(1～3年生) 1～3枚以内(400字以上1,200字以内)
- ・小学校高学年(4～6年生) 2～4枚以内(800字以上1,600字以内)
- ・中学校・高等学校 4～5枚以内(1,600字以上2,000字以内)

※題名は1行目、学校学年氏名は2行目、本文は3行目から1マス空けてください。

※応募作品に必ず本票を添付してください。



社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会
 〒444-0802
 岡崎市美合町五本松 68-12
 生活支援課 障がい係

TEL (0564) 47-8750
 FAX (0564) 47-8753
 [Eメール]

seikatsu@okazaki-shakyo.jp



岡崎市 手話通訳者 要約筆記者 派遣事業のご案内

※岡崎市内在住の聴覚障がい者の
コミュニケーションを支援します



りよう もうしこ
 ≪利用の申込み≫

※ 1週間前までに派遣申請書を提出してください。
 (申請書は社協ホームページからダウンロードできます)

※わからないときはメール、FAXで相談してください。

※手話通訳者・要約筆記者には守秘義務があります。

じゅうたく
住宅

- ☆入転居などに関する話合い
- ☆土地、家屋の購入・修理など

その他

- ☆弁護士への相談
- ☆銀行・生命保険会社など
- ☆市及び市内福祉関係団体の主催する大会、
行事、会議など

しゅわつうやくしゃ
手話通訳者

厚生労働大臣認定手話通訳士及び手話通訳者全国統一試験合格者が
派遣されます

ようやくひっ きしゃ
要約筆記者

全国統一要約筆記者認定試験合格者及び要約筆記奉仕員養成講習会
応用課程の修了者が派遣されます

●費用は岡崎市が負担します。

いりょう
医療

- ☆診療 ☆入院
- ☆健康診断など



こうてききかん
公的機関

- ☆公的機関へ相談、
申請、手続きなど



しゅうろう
就労

- ☆就職面接など



きょういく
教育

- ☆入学式 ☆卒業式
- ☆総会 ☆授業参観など

ちいきせいかつ
地域生活

- ☆冠婚葬祭
- ☆自治会等会合への参加

